Ｎｏ．１３６【２０１４年１２月５日配信】
モヤヒルズの歴史（担当：葛西）

こんにちは。12 月に入り雪が降り続き、山々は一面銀世界ですね。

八甲田山麓の北西部標高 553 メートルの雲谷峠付近に、青森商業銀行頭取だった 2 代目大坂金助氏が雲谷住民と親交し、昭和 9 年(1934)頃スキー愛好者のためにヒュッテを建設したことが、雲谷スキー場のはじまりといいます。

松原地区から見る雲谷（日中）

松原地区から見る雲谷（夜）

そのスキー場に、イシダスポーツの石田治男氏がロープトウを設置、昭和 34 年 12 月、雲谷スキー場がオープンし、約 4 万人のスキーヤーが利用し賑わいました。これにより、市にリフト架設等の市民要望があり、市で翌年 9 月 15 日からスキーリフトの工事に着工し、12 月に竣工しました。日本で初めて設計されたものといわれ、その規模は、ポールがコンクリート造りで、リフトの全長 304 メートル、人を乗せるための搬器(はんき)46 台、1 時間の輸送能力は約 360 人というものでした。また、ヒュッテも 8 棟完備されました。この時のリフト料金は、一般 1 人 1 回 30 円（現在は 250 円）、こども 1 人 1 回 15 円（現在は 200 円）でした。

昭和 30 年代の雲谷スキー場
（青森市経済部商工課『あおもり』、昭和 36 年発行、市史編さん室蔵）

ところが、昭和 40 年代になると自動車社会到来による駐車場問題や、県内や隣県の大型スキー場の登場により、市民から不満が目立ち始め、次第に利用者が減少しました。

市では市民の足を再び雲谷に向けさせるため、平成 6 年（1994）から同 9 年 10 月まで、総工費約 70 億円をかけてレジャー施設「モヤヒルズ」を整備完成させました。ゲレンデは土地を拡張造成し、初級者から上級者まで満足のいくコースが造られ、リフトは、高速の 4 人乗りコスモスクワッドリフトをはじめ 4 基、ロープトウが 2 基造られました。コースの長さや幅も広がり、子どもから高齢者まで楽しめるものになりました。

賑わうゲレンデ

コスモスクワッドリフト

モヤヒルズフィールドガイド

ヒルズクラブ

トンケイコースから市街地を望む

冬季以外にも子どもから大人まで楽しめる総延長 1,546 メートルのローラールージュ「ヒルズサンダー」を設け、周辺にコスモスが植えられました。ほかにオートキャンプ場、ケビンハウス、テニスコート、フリークライミングなどの施設があり、四季を通じて楽しめるようになりました。また、すばらしい自然景観に恵まれ、リフト頂上からみる市街地や陸奥湾、ナイターでの夜景は、感動を誘います。

ヒルズサンダーのコース

コスモス迷路入口

コスモス迷路

キャンプ場

ケビンハウス

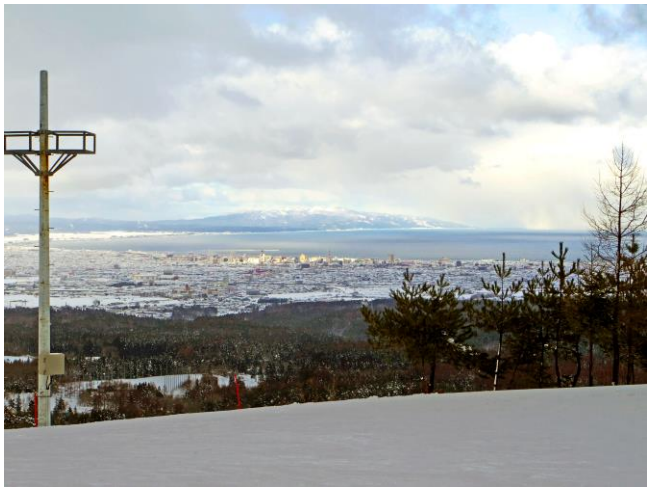
テニスコート

冒険公園

コスモスとヒルズクラブ

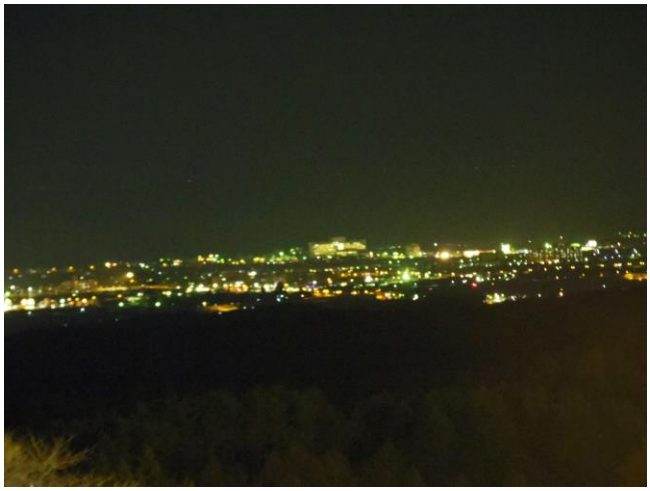
来週 12 月 13 日（土曜日）には、モヤヒルズのオープンが予定されていますので、ゲレンデにシュプールを描いてみませんか。

※今回のトリビアは、『新青森市史』通史編第 4 巻現代、『広報あおもり』（第 36 号）などを参考にしました。



ゲレンデから陸奥湾を望む

ナイター



市街地の夜景

アケビペアリフトを降りたところにある鐘

スキー場の中にある八雲神社